

富山薬窓会首都圏支部

目 次

支部長ごあいさつ	(55、S43年卒) 柿崎 直和 .. 1
総会での話題提供①「化学物質のin vitro発がん性予測—遺伝毒性試験だけでは片手落ち、 形質転換試験のOECDガイドライン化を目指して—」	(56、S44年卒) 酒井 綾子 .. 2
総会での話題提供②「エッチュウミセバヤの発見」 ..	(57、S45年卒) 冨田 幹夫 .. 2
100字通信①	3
本部総会に出席して	(55、S43年卒) 柿崎 直和 .. 4
京都の夜を楽しんだ大卒第1回同期会アインクラブ ..	(40、S28年卒) 千原 秀夫 .. 5
新型インフルエンザを巡る閑話	(58、S46年卒) 石井 誠司 .. 5
富山薬窓会首都圏支部会との出会い	(85、H10年卒) 高瀬 明子 .. 6
初参加！首都圏総会の魅力！	(89、H14年卒) 設楽 邦夫 .. 7
100字通信②	8
写真紀行「山の思い出」	(48、S36年卒) 中嶋 啓 .. 9
書評「君に見せばや」	(57、S45年卒) 保坂 公平 ..10
桔梗会便り「小旅行の報告と講演会のお知らせ」	(47、S35年卒) 上村 恵子 ..11
ゴルフクラブ便り	(55、S43年卒) 柿崎 直和 ..11
平成21年度 首都圏支部活動報告	13
平成21年度 首都圏支部資産状況等	13
平成21年度 会計報告、平成22年度 予算(案)	14
平成21年度 支部年会費納入者一覧	15
編集後記	18



世は、「コンプライアンス」から「アドヒアランス」へ

首都圏支部長(55、S43年卒) 柿崎直和

首都圏支部会員のみなさま、日ごろの支部活動へのご支援とご協力に感謝申し上げます。

昨年からはじめた支部の新しい活動である「薬多津三金会」が、とくに若手会員のみなさんの積極的なご協力によって、定着したといえるほどになりました。もちろん、“都内では最高、仙台でもめったに食べられないほど美味である「牛タン」に惹かれて集まっていることを忘れてはいけません(本場仙台で修行を積んだ“多津よし”の大将に感謝)が、ほぼ皆勤の役員を囲んで、中堅・若手・女性会員が連絡を取りあって集まり、毎月の第三金曜日の夜は楽しく賑やかに更けていきます。支部会員のみなさまには、ぜひお気軽に覗いてみていただきたいと、心からお願い申し上げる次第です…三金会の当面の開催日と会場のご案内は、会報の後方ページに記載してあります。

さて、最近の世相を見ていると、どうも「日本国」そのものを、根本から作り直すことが必要になっているのではないかと考えさせられています。みなさまはいかがでしょう。

政治、経済、社会の全体設計の中で、すべての国民がそれぞれの生活を形づくるパーツの「細かい一片ずつ」を分担しているわけですから、全員が「自分の担当パーツ」をより正しい方向へ、少なくとも正しくないと感じている方向とは逆へ、一歩ずつ改善する努力をすること以外に、国全体を軌道修正する方法はないと思います。

私たち「薬窓会」は「薬剤師の大集団」でもありますので、一定の職能を持つ薬剤師としても、正しい方向に向かって改善する努力が求められています。薬剤師は、患者さんが自分の病気を治す目的で服用する医薬品の安全確保が最大の責務で、一人ひとりの薬剤師が完璧な仕事を遂行してほしいと思います。

たとえば近年、「コンプライアンス」という用語は、「アドヒアランス」という用語に変わってきましたが、これは、「病気の治療」における、医療提供者と患者さんの関係の変化でもあります。「コンプライアンス」は、「医療提供者によって決められた用法・用量を厳守してもらう」という“上から目線”のイメージですが、「アドヒアランス」は、患者さんが自ら参画意識を持ち、病気と治療方法を正しく理解し、服用する医薬品に関しても十分に知っていることが大前提になります。とすれば、「正しい薬を渡す」、「適切な情報とセットで薬を渡す」、「正しく服用されているかどうかを確認する」ことが、薬剤師の仕事を完遂するための条件となるでしょう。

世界のトヨタ、国内トップクラスの医療水準を持つ病院をもグループ傘下に治める会社が、医療の世界で起きている「用語の世代交代」を知っていれば、つまり、「コンプライアンス」から「アドヒアランス」への変化は、人類が共有できる知恵であり、生産者と顧客の相互関係の変化としてシンクロさせ、「より安全な自動車づくり」に生かしていれば、今日の事態は避けられたのではないかと、虚実が入り混じるマスコミ報道を見聞しながら私自身は考えたのでした。

化学物質のin vitro発がん性予測

—遺伝毒性試験だけでは片手落ち、
形質転換試験の
OECDガイドライン化を目指して—

(56、S44年卒) 酒井綾子

開発過程にある化学物質や既存化学物質の安全性評価で、発がん性は重要な項目です。最終的には、実験動物を使った評価に頼るしかありませんが、速く、安価に試験するために、in vitro試験が盛んに使われています。ヨーロッパでは動物愛護の精神から最近ますますその重要性を増しています。In vitro試験として一般に使われているのは、遺伝毒性試験です。がんは、遺伝子の病気だからです。しかし、この遺伝毒性試験をすり抜けてしまう発がん物質が相当数あることが問題になっています。がんは、生涯に亘って進行する病気です。化学物質の発がん影響を、果たして体細胞遺伝子の不可逆的変異に照準を合わせた遺伝毒性試験だけで評価してよいのでしょうか。

私たちは、化学発がんの視点から、遺伝毒性試験とはカテゴリーの異なる形質転換試験(トランスフォーメーション試験)も、化学物質の発がん性を予測するための試験に加えるべきだと考えています。そうすることによって、予測の精度が上がると考えるからです。形質転換試験というのは、試験管内発がん試験とも呼ばれ、細胞の悪性変化(細胞がよりがんに近い形質を持つようになること)を指標にした試験法です。従来の形質転換試験は、コストが高み試験期間も長いことから、発がん性予測試験としてはあまり普及していません。しかし、従来法とは、コスト、試験期間ともに改善されたBhas 42細胞形質転換試験

が開発されました。Bhas 42細胞は、従来から形質転換試験に使用されてきたBALB/c 3T3細胞に、活性なネズミがん遺伝子rasを導入して作られた細胞で、親細胞より発がん物質に対して感受性が増しています。Bhas 42細胞形質転換試験は、遺伝毒性がない発がん物質(非変異がん原性物質)を検出することができます。独立行政法人・新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が行うプロジェクトの一環として、食品薬品安全センターが中心となって実施した研究から、Bhas 42細胞形質転換試験の有用性が明らかになりつつあります。今は、何でも国際標準をクリアしないと世界はおろか国内でも使ってもらえません。この3月にOECDへガイドラインとして提案すべく準備を進めています。

(財団法人 食品薬品安全センター 秦野研究所)

エッチュウミセバヤの発見

(57、S45年卒) 富田幹夫

私は主にサイトカインの研究を行い、白血病細胞の増殖を阻止するleukemia inhibitory factor (LIF)を純化しました。その後、米国のGenentech社に1年間滞在し、LIF受容体遺伝子の分離に挑戦しました。LIFは臨床応用に至りませんでした。現在、マウスES細胞の培養に必要な物質として役立っています。

今回は薬学とは関係がない、富山と関連する話題を紹介いたします。私は学生時代にミセバヤ(小豆島にのみ自生)に似た植物を富山の山中で発見しました。花と葉が美しいこ

の植物をエッチュウミセバヤと名づけて、論文を1973年の『植物研究雑誌』に発表しました。その後、還暦と同時に『君に見せばや：特産植物探索記』を上梓しました。この本とエッチュウミセバヤ発見の経緯は大学の恩師、西荒介先生が昨年の『遠久朶』で紹介してくださいました。私は学生の頃から、高山や野山に咲く、美しい花、珍しい花(特産植物)を探し歩いて、写真に撮ることを趣味にしています。その時の紀行を本にまとめました。第1章が「山の花野の花ウォッチング」の国内篇です。第2章が「海外のワイルドフラワー」です。LIFの研究に関連して、国際会議での発表や海外留学ができました。その機会を利用して、海外の自然を探索しました。第3章が「エッチュウミセバヤの発見」で構成されます。ミセバヤの名は、昔、吉野山の法師が奥山でこの美しい草を見つけ、「君に見せばや」という句のある和歌をそえて、和歌の師に贈ったことに由来します。「君に見せばや」とは「貴方に見せたい」という意味です。ごく最近、奈良県でヤマトミセバヤが発見されました。吉野山の法師が見つけた植物と同一だと思われま。古い文献にミセバヤに似た植物として、加賀産のカガノベンケイソウの図が描かれています。その後、この植物を見た人がいない幻の植物です。エッチュウミセバヤと同一の可能性もありますが、標本がないので検証できません。拙著の写真はモノクロですので、今回、花や風景をカラースライドで紹介できることを喜んでます。皆さんの目の保養になれば幸いです。

(埼玉県立がんセンター臨床腫瘍研究所)

100字通信①

④7、S35年卒 野田 久正
hisamasa_noda@nifty.com

古来稀なる歳をクリアしてみて、今は生年月日を忘れようと努力中。週5日は仕事、週末はゴルフで汗を流し、昨年は穂高登山、今年は蔵王でスキーと日々刺激の多い毎日を通っています。同窓会、同級会も楽しみながら！

旧職員、和漢薬研究所 生物試験部門 教授
(S45～S58) 渡辺 和夫
yuyu108@cnc.jp

お陰様で元気です。認定薬剤師研修のお手伝い、JSTの文献抄録などに関与しています。富山で覚えた海釣り体力を、俳句の句会に出て脳機能を、それぞれ鍛えて老化防止につとめています。

④7、S35卒 伊勢谷 篤弘
jimy518@yahoo.co.jp

元気で人生の秋を楽しんでおります。八千代クラシック(本年3月31日)でホールインワン達成(2度目)。薬窓会の友人、医師、歯科医、地元の友人や市議会議員など72名の大コンペで、私が会長をやっております。

④4、S32年卒 高木 良造

夏にトルコに行き、世界遺産を5カ所と古代遺跡を見てきた。カッパドキアでは気球に乗り、空から雄大な奇岩群の景観を見て感動した。又、古代都市エフェソスの遺跡では、美しい町並みと当時既に上下水道が完備していたのには驚いた。

④8、S36年卒 川上 惇

6月に軽井沢、大賀ホールの合唱祭に行ってきた。ホールは駅から近いところにあり、落葉松材で作られた立派な建物であった。大通りは大賀通りと名付けられ、町は寄付者の功績を顕彰している。演奏会が多く開かれる。

会報に同封されている100字通信ハガキで近況をお知らせください。

本部総会に出席して

(㉟、S43年卒) 柿崎直和

3月24日(水)、カナルパークホテルにて、本部総会が開催されました。当日は薬学部の卒業式・修了式でもありましたが、あいにくの曇り空のち雨という天気で、立山連峰の雄姿が見えず、卒業生諸君にとっては残念なことでした。

総会議題の中で、いくつかの基本的な問題が提起され、審議されましたので、それをご報告します。

- ①毎年、卒業生に薬窓会から贈呈している記念品(印鑑など)を、今年も継続して実施した⇒卒業時、薬窓会に入会しない学生が1割強存在し、近年、増加傾向にある。学生だけでなく父兄に対しても入会を勧める手だてを講じているが、最終的に10名程度は入会していない⇒入会しない学生に対しても、記念品を贈呈することの是非に関して、常任幹事から、財政ひっ迫の折りでもあり、検討する必要があるのではないかと意見が出された。
- ②会員名簿2009の発行において、かなりの誤記が発生し、印刷会社から会報(遠久朶)に「お詫びページ」を挟む結果となったことに関して説明と謝罪⇒住所の空欄も相当あったが、その点は個人情報との関係があり、会員が掲載に同意しなかった(=返信を送らなかった会員も含まれる)結果であると報告された。次回の名簿発行予定は5年後であるが、それまでの間に解決策を検討する⇒各年度の卒業生とも、一定の間隔で同級会が開催されているので、その学年の幹事から随時、本部に名簿を提供してくれるよう要請していくことになった。また、きびしい経済情勢を反映して掲載広告が半

減、発行代金が小額ながら赤字になってしまったことが報告された⇒繰越金と永久会費からの一時的な補てん(金額的には4万円強)で対処したが、今後の販売で得られた利益で弁済は可能である。また、現行販売価格の3,500円は、他学部の名簿(ほぼ5,000円)に比較すると安価である。

- ③通常経費予算は、新入会員(104名)の会費と年会費振込者(45名)および終身会費振込者(永久会員、14名)で賄われているが、実情は収支が50万円強のマイナスになる状況であり、今後の課題である(前年度繰越金を取り崩して補てんしており、次年度繰越金は800万円強になっている)。

- ④連合会活動に関して、会長が初代の中尾哲雄会長(経済学部S35年卒。インテック(株)会長)から、北野芳則氏(理学部S35年卒。設立総会での記念講演者。YKK副社長)に交代したこと、連合会の事業として実施している「ホームカミングデー」(同窓生をキャンパスに招待し施設を見学してもらう企画)が、薬学部当番(杉谷キャンパス)で実施されたが、職員一同の協力ですばらしい内容になり、参加者から大好評だった(本部会報に紹介してある)ことが報告された。

さらに、各支部の現状報告が行われましたが、どこの支部でも、若い年代の会員の参加が不十分であり、対策が必要なことが指摘されました。全国的に新しい薬学部が誕生し、富山大学に入学する学生の出身地が変化している状況も発生しています。このことは、支部運営の基本に関わる事項でもありますし、財政問題にも関係してきています。首都圏支部としても、支部会員名簿の整備とともに解決策の検討が必要です。

なお、今年の卒業生は「創薬科学科」のみでしたので、学部卒業生は54名でした。うち53名が大学院に進学して、医薬品の創製研究をめざすことになるとのことでした。

京都の夜を楽しんだ 大卒第1回同期会アインクラブ

(40、S28年卒) 千原秀夫

去る平成21年10月4～5日、京都で昭和28年卒大卒1回生の同期会が開催されましたことは〈遠久栄：第87号〉にお世話頂いた幹事の関西在住人見五郎君の〈つどい〉投稿でご存知と思います。実は今回の会では京都ならではの素敵なプランがあったことを付記して紹介したいのです。

このプランはもちろんプライベートプランではありませんで、昭和37年京都市観光協会によって開設された歴史ある定期観光バスプランの中の〈ギオンコーナー〉という夜のハイライトプランですが、平素気軽には行けない最高の歓楽地祇園を日本人にも外人にも集約的に紹介してくれるもので、その意味で参加者の80%くらいは世界中からの外人観光客でした。会場は祇園花街の中心、弥栄会館の1階で、プログラムは茶道、琴、華道、雅楽、狂言、京舞、文楽と日本古来の古典芸能のサワリを網羅したもので、京都府人の私も初めて集大成ともいうべきこのプログラムには感激ものでした。もちろん終演後は祇園界隈を散策し運よくば舞妓さんにも会うことができますので散策がお勧めです。

今回はこの祇園に行く前に京都洛北鷹ヶ峰にある〈しょうごん庭園〉という本阿弥光悦が一族と多数の芸術家を引き連れて移り住み芸術村を作った、広大な北山台杉と紀州石をぜいたくに使った庭園を鑑賞し、そこで京懐石料理も味わうことができました。皆さん京都に行かれたらぜひこの〈京都の夜〉という観光プランをお楽しみいただきたいと思います。

*本稿の一部および使用の写真は〈京都定期

観光バスのご案内〉から引用させていただきました。



新型インフルエンザを巡る閑話

(58、S46年卒) 石井誠司

38年余りの製薬企業でのサラリーマン人生にピリオドをうち、研究開発型企業の団体である日本製薬工業協会(製薬協)にお世話になって早くも丸2年が経過しました。企業文化が異なる各企業出身者で構成されている業界団体のため、職場での人間関係は勿論、これまで業界活動への関わりが少なかったこともあり、いささかの戸惑いもありましたが、今はどうにか腰を落ち着けて業務に取り組んでいるところです。

製薬協で最初に私が携わった仕事は、「新型インフルエンザ」の世界的なパンデミックに備え、製薬企業が取り組むべき対策の指針となる「業務継続のための新型インフルエンザ対策ガイダンス」をまとめることでした。

その時点では、いつ襲ってくるかわからないH5N1型パンデミックへの各企業の対応には温度差があり、また、BCP(事業継続計画)の作成は各企業の戦略に関わることであることから、各社共通のガイドライン作成には、多くの障害が待ち受けているのではないかと一抹の不安もありました。ところが、いざスタートとしてみると、生命関連産業の集まりである製薬協加盟企業の取り組みは、さすがに他の業界に比べ迅速に対応でき、各社個別のガイドラインも予想より早く作成されていきました。どうにか準備も整ったかなと一息入れた矢先、2009年4月末の新型インフルエンザ(H1N1型)騒動が巻き起こったのです。

50歳を過ぎたころから、長年連れ添った妻へのささやかな感謝も含めて、妻の趣味に合わせてヨーロッパ中心の美術館巡りを楽しんできましたが、キリスト教文化が背景の西洋絵画鑑賞にも、いささか食傷気味のところ、定年祝いという事もあり私の希望を聞き入れてもらうことができ、今回はGWを利用してアメリカ西海岸への旅行を企画しました。ところが、出発間際になって、メキシコ、米国カリフォルニア州で新型インフルエンザ発生、死亡者のニュースがWeb上を駆け巡ったのです。それでもその時点ではWHOの警戒レベルは、まだフェーズ3の段階であったこともあり、海外の検疫体制を自ら体験してみようと、協会内の許可もとって、予定通りの旅行を、と意気込んでいました。ところが、その時既に妻は「そんな危険なところにわざわざ行く必要はないわ。」と、私への相談なしに一方的にキャンセル手続きを済ませ、間をおくことなく夏休みの美術館巡りの予定をたてているという、これまでの夫婦関係を象徴する結果となってしまいました。しかしながらその後、フェーズは4、5、6と、あっという間にアップしていき、もしあの時、強行していれば恐らくは帰国の際、成田で留め置きの

措置になっていたのではないかと、今では妻の英断(?)に感謝しています。

その後の新型インフルエンザを巡っては、H1N1とH5N1との感染力、毒性の違いもあり、ガイドライン運用面での企業内対応で少々混乱もありましたが、次に備えての予行演習を体験できたことは不幸中の幸いでした。とは言っても、当初想定したH5N1型パンデミックへの導火線が短くなっている状況は何ら変わっていません。パンデミック時には製薬企業は、治療や感染の拡大防止のために医薬品を供給し続ける社会的責任があります。これからも、こうした製薬業界の取り組みに対して、微力ながらもお手伝いできることを願っている今日この頃です。

(日本製薬工業協会)

富山薬窓会首都圏支部会 との出会い

(㊦、H10年卒) 高瀬 明子

2000年に修士課程を終え東京で就職してから、早くも10年が経ちます。毎年首都圏遠久菜と共に総会のご案内が届き興味はあったのですが、予定が合わないことや最初の一步を踏み出せないこともあり、長らく出席していませんでした。

そんな私が初めて首都圏支部総会に出席したのは、2008年6月のことです。きっかけは、葛西美恵さんの話題提供(英国の医療制度と薬剤師の職能)に惹かれ、同じく製薬会社でご活躍中の歳の近い女性の先輩とお会いしたいという気持ちでした。初めて参加して驚いたのは、100人近くの盛会で、実年齢を聞いてびっくりするほど元気な先輩たちが沢山いること、そしてこの私が最年少で若手と呼んでもらえたことでした。また、支部長さんや

来賓のお話に加え、恩師の先生から薬剤師6年教育化を受けて変わりつつある大学の最新情報を聴くことができ、非常に有意義な時間でした。懇親会では多くの人とお話しできて楽しかったですし、ぜひ若手をもっと連れて来てほしいとの先輩方の熱い思いを受け、翌年の出席を誓ったものでした。

2回目となる今年の総会は同級生を誘って参加し、葛西さんも同級生を連れて来られ、さらに私より大分年下の後輩もいらして、少しずつ若手(私がこう呼ばれてよいのかいつも疑問ですが...)も増えています。薬多津三金会にも何度か参加しました。牛タンは本当に美味しく、アットホームな小部屋で会話も弾みます。私の携わる臨床開発以外の製薬会社関連、薬剤師や他業種のお話は勉強になりますし、時間を捻出して勉強に励んでいる姿や、趣味の話にいつも刺激をいただいています。出身大学が同じというだけですぐに打ち解けられるのは、不思議ですね。最近では若手で時々集まり、富山や北陸のお店を開拓しています。たまには三金会番外編としてこういうお店もご紹介できたら、と秘かに考えています。

これからも、首都圏支部会の発展に微力ながらご協力できたらと思っています。ご興味を持たれた方がいらっしゃいましたら、ぜひ一度総会か三金会にご出席いただき、富山の思い出話で一緒に盛り上がりましょう！

(万有製薬株)

初参加！首都圏総会の魅力！

(89、H14年卒) 設 楽 邦 夫

富山を離れて5年程が経過した平成21年、ふと首都圏支部の定期総会が気になり、思いきって参加をしてみました。初参加のため会場に入るまで会の雰囲気がわからず、期待と不安を感じながらの会場入りでしたが、実際の雰囲気はとても良く、話題提供や懇親会などで貴重な話を聞くこともできました。参加して良かったと思うと同時に、今後も積極的に参加してみようと思いました。

当日は72名の参加者と6名の先生方が集まり、年齢層は昭和26年卒の方から平成14年卒までと広く、業種も病院・薬局のほか、行政、製薬企業、CRO等と様々でした。普段接することのない世代や業種の方から様々な話を聞くことで、自分の仕事が及ぼす影響をより広く感じることでできた大変貴重な機会となりました。

また、当日の参加者の中で私が最年少(30歳)であったためか、先輩方が支部会の歴史や定期総会にける思いを熱心に語ってくださいました。一番印象に残っていることは、もっと若い世代が支部会に参加しやすくなるように、先輩方が会の運営方法を懸命に工夫されているということでした。話題提供もその一環だそうです。先輩方が築いてきた貴重な人の輪を、これから先の世代にも繋いでいけるよう、若い世代も積極的に参加することが大事なのだと感じました。まだ参加したことのない方は是非一度参加してみてください。そして、もし改善点があれば首都圏支部に伝えてみてください。そうすることで、この会がより多くの人に貢献できる素晴らしいものになると信じています。

同じ学び舎を巣立った者が各方面で活躍し

ながら、ときに協力して何かをやり遂げることはとても素敵なことだと思います。そんな機会が多くの方に一日も早く訪れることを夢見ながら、今後の首都圏支部がより盛り上がることを願っています。

(アストラゼネカ株)

100字通信②

⑥⑩、S48年卒 中西 憲幸
nakanino@nifty.com

桜がいとおいしい年齢になった。子供の頃には桜は春に咲く花でしかなかったが、今は季節感以上のものを感じる。早咲きの山桜から遅咲きの八重桜まで200種以上あるようだが、私は花だけが先に咲き、ぱっと散るソメイヨシノが好きである。

③⑦、S24年卒 待島 昇

夫、待島 昇は平成21年2月2日に死去いたしました。

宜しく願い致します。お知らせいたします。
待島 良子

狭山市柏原ニュータウン93-12

⑤⑧、S46年卒 末木 一夫
suekazuo@jcom.home.ne.jp

プロスポーツで気になることがある。企業による協賛である。その企業が社員を削減しているのに、例えばゴルフの年間ツアーに多額の賞金を出して、個人に流れる。まじめに働いている社員に失礼ではないだろうか。

④⑨、S28年卒 眞船 恒雄

昨年のインクラブは京都でした。12名元気に勢揃いし、夜の京を満喫した所です。今年は富山の予定です。私の健康法3つのケア「頭はパソコンと健康学、心はカメラを携帯の旅、身体は今年450万歩が目標です。」健康第一幸せです。

④⑥、S34年卒 川畑 耕祐

小生現在スーパーの薬品コーナーに週4日勤務しております。古希も過ぎ昨年は6回目の年男を迎えましたのでそろそろ引退を考えていますが薬学部が6年制になったためここ2年間新卒薬剤師が誕生せず辞めづらい環境です。

②⑧、S15年 須田 民三

2009年10月満90才になり、2010年は薬専卒業70年になります。漢方が殆ど無くなり150年以上です。富山大薬用植物園に生きている同級と2010年4月に見学に行きたいと存じてます。(現在4～5人)

③③、H08年卒 葛西 美恵

東京に来て三年、「調剤室から消えた薬剤師」を出版し、近畿支部、首都圏支部と薬窓会の講演にも呼ばれはや四年。尻すぼみかと思いきや、おかげさまで今もじわり売れている。今後も人との出会いを大切に励みたい。同期の皆様、連絡下さい！

⑤⑤、H10年卒 高瀬 明子

今シーズンのスキーは、野沢温泉、八方尾根、蔵王、軽井沢で滑りました。軽井沢は競技スキー部関東OB・OG会の開催で、幹事を務めました。ご家族含め20名の参加で、コテージに泊まり夜遅くまで盛り上がりました。

⑤⑨、S47年卒 井本 直樹

光陰矢の如し！333mの東京タワーが眼前の三田通から、オペラシティー・新宿高層タワー群が眼前の初台に転居し十年近く、タワー世界一を目指す634mの東京スカイツリーを見学に押上へ妻と共に。ツリーに釣られて日本の成長を！

会報に同封されている100字通信ハガキで近況をお知らせください。

山の思い出

(48、S36年卒) 中嶋 啓

今年配布された富山薬窓会・遠久朶87号の劔岳の写真。岩と雪と青い空を眺めていると学生時代を懐かしく思い出した。早月尾根、劔沢、平蔵谷、源次郎尾根、長次郎谷、ハツ峰、三の窓雪渓、チンネ、赤谷山、毛勝三山、昨年話題となった映画「劔岳・点の記」では、これらの映像が大きく映し出され、素晴らしい景色の連続に圧倒された。後立山連峰を縦走する時には、いつも槍・穂高と同時に、この故郷「劔岳」からは目がはなせない(写真1)。



写真1

昭和32年入学時はワングルに入部した。ワングルとは言っても、土地柄か平地歩きはほとんどなく、浄土山頂小屋を起点とした山歩きを繰り返した。この小屋は、昭和18年に陸軍が気象観測所として建設した施設で、昭和26年に富山大学の所有となり、ワングルが管理していた。近年、老朽化により倒壊の危険性が増したため、再建計画が進められ、一昨年から募金活動が行われている。

2年生からは薬学山岳部、3年の時に文理と合併した山岳部に所属し、薬学部にいると言うよりも山岳部の活動に熱中していた。昭和35年末に劔岳北部の赤谷山で豪雪のため6名の後輩達が遭難した。年明け、田舎の高知

から富山に向かい、麓の馬場島での救助活動に参加したが、残念ながら後輩たちは帰らなかった。

「田部重治」と言う富山市生まれの登山家・英文学者をご存知だろうか？旧姓は南日(明治17年～昭和47年)、東京帝国大学英文科卒業後、東洋大学、法政大学などに勤務。東大在学中に木暮理太郎(後の第三代日本山岳会会長)と知り合い、詳しい地図がまだ作成されていなかった時代に日本アルプスや秩父山地を二人で訪ね歩き、これらの山々の魅力を「日本アルプスと秩父巡礼」、「山と渓谷」として紹介した。彼は日本の登山は山頂のみでなく、峠、高原、湖、渓谷、森林、山村などを含む旅「山旅」と表現するのがもっとも適切であるとしている。田部が渓谷と森林の美を感じた奥秩父の金峰山山麓に彼と木暮理太郎のレリーフがある。

65歳を間近にして私は「(財)日本万歩クラブ」に入会した。このクラブは登山、里山歩き、街歩きなど年間120程のコースを経験豊富な20数名のリーダーが担当しており、私が「山旅」を再開するには好都合なクラブであった。スノーシューをつけての雪山歩き(写真2)や渓谷・森林を眺めながらの山歩きは全ての煩わしさを忘れさせてくれた。



写真2

去年は八ヶ岳、木曾駒ヶ岳、北岳(写真3、4)を楽しんだが、70歳を過ぎてそろそろ足腰の衰えを感じるようになった。後数年は無理をせず「山旅」を楽しみたい。



写真3



写真4

書評

君に見せばや

(57、S45年卒) 保坂公平

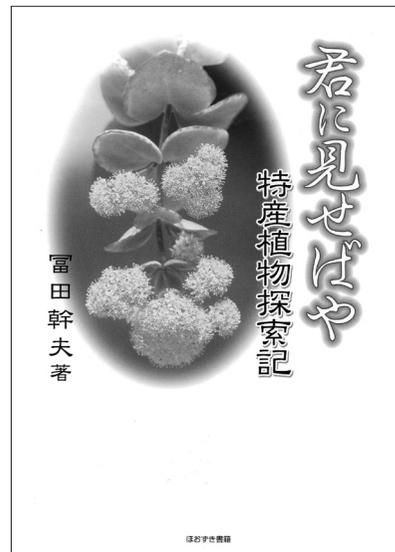
畏友、富田幹夫君に初めて会ったのは、大学入学時の1966年。もう44年も前のことである。同じ薬学科の13人の侍の一人の彼は、角刈り姿が良く似合っていた。非常に口数が少ないので当初筆者とは、殆ど会話をする機会がなかった。前期試験の秋休みが終って、彼の誘いで植物研究会(通称:植研)に入部した頃から大岩方面への採集会と一緒に参加する機会を得てから、変化が起こった。知らない道端の植物の名前を尋ねると、全てに的確な答えが返ってきた。「君は、いったい何種類の植物を知っているの?」と問うと「5~6000種類かな」と平然と答えが帰ってき

たのには驚いた。

富田君は一昨年「君に見せばや」という本を「ほおずき書籍」より出版したので、早速読んでみた。まず、ピンク色の珊瑚を思わせる綺麗な花の写真の表紙からして印象的である。パラパラと本をめくって、後半の「エッチウミセバヤの発見」から読み始めた。ベンケイ草の仲間の新種の発見についての経緯が書いてある。そういえば、富田君が東大の大学院に入った頃、小石川植物園に毎週通っていた事と、新種を発見した事などを訥々と話してくれた事などを思い出した。何と彼は、この新種を既に大学入学の翌年に見つけていたらしい。新種ということは、その他の種類を全て知っているからこそ断言できる訳で、植研歴3年半の中で僅か百個に満たない植物名の知識しか持たない自分には、到底不可能な技である。文体はオーソドックスであるが、凡そ彼の姿から全く想像できない程のロマンチックな内容が展開されている。

蛇足ですが、「君にみせばや」とは、「あなたにおみせしたい」という意味の古語だそうです。我が薬学部同窓の皆さまも、この本を「みせばや」です。

(群馬大学医学部 教授)



桔梗会便り

小旅行の報告と講演会のお知らせ

(㊦、S35年卒) 上村 恵子

桔梗会は発足以来32年目になりました。会員の個人的事情による退会があり、また療養中の会員もあって出席は最大でも14名と、ごんまりとしたものになってきました。新規会員の参加はなくてごたぶんに漏れず高齢化しております。テキストは引き続き「シンプル薬理学」を輪読していますが今年中には終了します。その後どうするかは決まっておりません。

昨年11月に恒例の小旅行へ出かけました。1泊2日で行き先は「浜名湖立体花博と香嵐溪の紅葉狩り」。参加者は6名でしたが好天に恵まれ、花木を素材にした新しいジャンル芸術「モザイクカルチャー」(ワイヤーとメッシュで骨格を造りそこに土をつめこみ多様な草本をデザインどおりに植え込んで動物、群像、風景などを作る)を初めて見て、その規模の大きいこと、色の鮮やかなこと、デザインの多様なことにおどろき感激しました。

翌日は残念ながら曇天で肌寒かったのですが、香嵐溪のもみじを鑑賞し「三ケ日」で木成り蜜柑の濃厚な味を満喫し摘み取った蜜柑をお土産に帰りました。

57回卒、保坂公平氏の講演会開催のお知らせ

氏は桔梗会会員の米沢伸子さんと同期です。群馬大学医学部保健学科教授で薬理学、化学、分子生物学の講義を担当されており、リン脂質合成の調節機構の解析がご専門で「分子生物学の医学への応用」を話題に取り上げ前橋医師会で医師の卒後教育のために5~6回講演をなさっています。

桔梗会の講演テーマ：

「ヒトゲノム計画の過去、現在、未来」

日時：5月15日(土) 15：30～17：00

場所：北とびあ808号室

京浜東北線王子駅北口2分

南北線王子駅5番出口直結

会員外の皆様も多数ご参加くださいますようご案内申し上げ、お待ちしております。

問い合わせ先

上村(045—941—7625)、

米沢(049—353—6475)

ゴルフクラブ便り

第76回コンペ戦記

2009年4月24日(金)

川越グリーンクロス(埼玉県川越市)

前日の好天から一転、曇り空に変わり、肌寒い中ではありましたが、そこはゴルフ好きの面々、今回はちょっと少なめの12名ながら、全員元気に集合しました。紅一点は、布施米子さん(㊧、S43)。

戦場は、久しぶりの川越グリーンクロス。荒川沿いにはいくつものゴルフコースが並んでいます。ここは中でもダントツにグレードの高い良コースです。距離こそありませんが、フェアウェイには絶妙なアンジュレーション(起伏とうねり)が待ち構えており、大きなグリーンも凹凸が利いていて、一筋縄ではいきません。

近年の薬窓会コンペで特筆すべきことの一つが、まさに“強敵現わる”の関誠(㊦、S35)さんの華々しい再デビューです。失礼ながら、もはや“若手”とは申しあげにくい年齢に達しておられますが、がっしり大型の体躯から繰り出される豪快なショットは、い

つもドラコン候補ですし、小技にも冴えを見せ、つねに上位入賞・ベスグロを争う一人でもあります。

今回も、同期の小国益男さん(④⑦、S37)とベスグロを争いましたが、同スコア(グロス84)となり、当会の「先輩を敬う年齢優先規定」により、小国さんが獲得されました。小国さんは、優勝も合わせて獲得しました。準優勝は最近、好調の高木良造さん(④④、S32)、第3位は柿崎(⑤⑤、S43)でした。BBは川上惇さん(④⑧、S38)…マスターズ・スキーでの転戦直後でもあり、エンジンかからず?…でした。

(事務局:⑤⑤、S43年卒 柿崎直和)

第77回コンペ戦記

2009年10月23日(金)

紫CCあやめコース(千葉県野田市)

今回の戦場は、会員のニーズをほぼ完璧に満たす?紫CCあやめコースです。つまり、近い(埼玉の人も千葉の人も東京・神奈川の人も)、ほどよい距離(会員の平均年齢も年々高くなってきていますので、当然の要望)、美しいレイアウト、手入れが行き届いていると、四拍子揃ったすばらしいゴルフ場です。

いつものように天気は上々、総勢22名の参加者は、みんな気合が入って集合です(写真参照)。さらに、カートに乗ってみると、大きな驚きが待っていました。ナント首都圏で初めて導入されたという、「カート・ナビ」が設置されていたのでした! 「ナビ」ですから、各ホールのレイアウト(フェアウェイの距離とグリーン上のピンの位置)表示は当然ですが、スコアも1ホール終了ごと

に画面に入力していくシステムになっていました。途中でも各自の打数(合計とオーバー数も)をチェックできますし、ホールアウト後は全員が確認を済ませて「送信ボタン」を押すと、ハウス内のコンピュータ・システムにデータが登録され、その組のスコアが印刷されて出てくるのです。もちろん、コンペの集計も連動していて、プレーヤー、ゴルフ場の社員も、誤記、誤入力、計算ミスの心配は完全に解消されました。いやはや、ゴルフ場もついに、IT時代に突入してしまったのですねえ。

今回は石井誠司さん(⑤⑧、S46)が初参加してくださり、みんなを喜ばせました。久々の参加者は、安宅久弥さん(④⑧、S36)と野口正喜さん(⑤⑩、S38)。それに、名手の川村長生さん(④⑥、S34)が自らのゴルフ人生を振り返って書籍を出版され、全員にプレゼントしてくださいました(封筒に名前を墨書して)。

さて成績ですが、今回もベスグロ優勝は関誠さん(④⑦、S35)、グロス85、準優勝は小国益男さん(④⑦、S35)、第3位が川村長生さんでした。

BBは、当会の“華”、体調を回復され、戦線に復帰された大澤弥生さん(③⑨、S26)。

(事務局:⑤⑤、S43年卒 柿崎直和)



スタート前の面々…ヤル気が伝わってきます

平成21年度 首都圏支部活動報告

平成21年度 首都圏支部資産状況等

(平成 22 年 3 月末現在)

1. 定期総会

平成 21 年度首都圏支部定期総会

普通預金 (北陸銀行) 8,223,273 円

平成 21 年 06 月 27 日 (土) 茗溪会館

2. 幹事会

第 1 回幹事会

平成 22 年 01 月 14 日 (木) 茗溪会館

3. その他

①役員引継 (幹事長・副幹事長)

平成 21 年 07 月 09 日 (木)

ルノワール小滝橋通店

支部長 ⑤⑤、S43 年卒 柿崎 直和

副支部長 ⑤⑧、S46 年卒 加藤 健二

幹事長 ⑤⑨、S47 年卒 井本 直樹

副幹事長 ⑥⑥、S54 年卒 道見 茂樹

②打合 (事務局・役員)

平成 21 年 07 月 22 日 (木)

珈琲の館 (日本橋)

③葉多津三金会

毎月第三金曜日 多津よし (東池袋)

平成21年度 首都圏支部役員

(平成 22 年 3 月末現在)

Eメールアドレス登録ご協力お願い

首都圏支部の限られた資産を末永く維持させるため、事務局からの「首都圏遠久朵」、「総会案内」の発送をこれまでの郵便利用から可能な限りEメール利用に切り替えて経費節減することを幹事会で計画しています。また、会員からの「総会出欠返事」、「100字通信」の連絡も同様です。

つきましてはEメールアドレスをお持ちの方は是非事務局に連絡いただきますようお願いいたします。卒業回、卒業年、氏名、メールアドレスをあわせて事務局 (以下のアドレス)宛お送りください。ご協力よろしくお願ひします。

富山葉窓会首都圏支部事務局 アサヒ興業 (株) 宇田川

uda@pop-asahi.co.jp

なお、総会当日もEメールアドレスの登録を受け付けます。

平成21年度 会計報告
(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

I 収 入 の 部			単位 円
項 目	予 算	実 績	
前年度繰越金(普通預金)	8,881,506		8,881,506
年会費	400,000		289,000
総会参加費	600,000		491,000
普通預金利息	5,000		2,657
合 計	9,886,506		9,664,163
II 支 出 の 部			単位 円
項 目	予 算	実 績	
総会費	500,000		609,551
会合費	100,000		92,862
交際費	10,000		18,311
事務通信費	200,000		47,880
同好会補助費	64,000		64,000
会報発行費	600,000		535,700
出張費	140,000		60,000
事務局費	40,000		12,586
次年度繰越金(普通預金)	8,232,506		8,223,273
合 計	9,886,506		9,664,163

平成22年度 予算(案)
(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

収 入 の 部		支 出 の 部	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度繰越金	8,223,273	総会費	600,000
年会費	400,000	会合費	100,000
総会参加費	600,000	交際費	10,000
普通預金利息	3,000	事務通信費	200,000
		同好会補助費	64,000
		会報発行費	600,000
		出張費	100,000
		事務局費	40,000
		次年度繰越金	7,512,273
合 計	9,226,273		9,226,273

平成21年度 支部年会費納入者一覧

(総計 284 名)

※平成 21 年 5 月から平成 22 年 3 月
までに年会費を納入された方の一覧
です。

回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名
23	昭和	10	山下正男	39	昭和	26	米丸洋子	44	昭和	32	高木良造
26	昭和	13	竹澤富三	40	昭和	28	高瀬ミサ子	45	昭和	33	神田満枝
28	昭和	15	神山元治	40	昭和	28	眞船恒雄	45	昭和	33	橋浦十八
28	昭和	15	須田民三	40	昭和	28	高橋重二	45	昭和	33	荒木紀子
29	昭和	16	内田晴孝	40	昭和	28	千原秀夫	45	昭和	33	佐藤 忠
30	昭和	17	金子春雄	41	昭和	29	基常弘晃	45	昭和	33	佐藤池鶴子
30	昭和	17	高山 薫	41	昭和	29	志甫 正	45	昭和	33	児玉英篤
30	昭和	17	米屋清一	41	昭和	29	上銘外喜夫	45	昭和	33	大郷利治
31	昭和	18	渡會春雄	41	昭和	29	前川 稔	45	昭和	33	竹村康子
32	昭和	19	菅山順一	42	昭和	30	山上高德	46	昭和	34	五十嵐俊二
32	昭和	19	石倉隆一	42	昭和	30	久世啓吾	46	昭和	34	青木直右門
32	昭和	19	渡辺伸一郎	42	昭和	30	桑野二郎	46	昭和	34	結城澄子
33	昭和	20	岩崎 貢	42	昭和	30	佐藤哲男	46	昭和	34	西岡碩枝
33	昭和	20	浜田 孝	42	昭和	30	才川 勇	46	昭和	34	川畑耕祐
34	昭和	21	織井文貞	42	昭和	30	種谷 豊	46	昭和	34	竹腰時男
35	昭和	22	大高 諒	42	昭和	30	渡邊 静	46	昭和	34	中村恵子
35	昭和	22	山木 高	42	昭和	30	武内哲夫	46	昭和	34	尾嶋司郎
35	昭和	22	野村哲夫	43	昭和	31	久郷正孝	46	昭和	34	齊藤諒三
36	昭和	23	高柳 清	43	昭和	31	元田 修	46	昭和	34	森 哲朗
36	昭和	23	川原一美	43	昭和	31	古徳 治	47	昭和	35	関 誠
36	昭和	23	島谷佐太郎	43	昭和	31	細 信彦	47	昭和	35	小国益男
37	昭和	24	伊藤謙治	43	昭和	31	山岸伸郎	47	昭和	35	倉石弘一
37	昭和	24	斉藤正巳	43	昭和	31	車田知之	47	昭和	35	古川貞子
37	昭和	24	山口輝夫	43	昭和	31	上野謙爾	47	昭和	35	安川正巳
37	昭和	24	秋元 昂	43	昭和	31	富山和夫	47	昭和	35	安川俣子
37	昭和	24	千葉繁治	43	昭和	31	本多 存	47	昭和	35	京泉清男
37	昭和	24	大和崇雄	43	昭和	31	落合信雄	47	昭和	35	市中滋郎
37	昭和	24	若林正之	44	昭和	32	永田邦夫	47	昭和	35	若林庸夫
37	昭和	24	水牧勝美	44	昭和	32	金森桂子	47	昭和	35	城宝史郎
38	昭和	25	上野純一	44	昭和	32	高瀬清孝	47	昭和	35	並木英明
38	昭和	25	橋本人之	44	昭和	32	紙谷得子	47	昭和	35	須藤昌二
38	昭和	25	熊谷隆司	44	昭和	32	車田千秋	47	昭和	35	梅原 弘
38	昭和	25	今村尚幸	44	昭和	32	石原俊明	47	昭和	35	伊勢谷篤弘
38	昭和	25	津田照明	44	昭和	32	林 吉孝	48	昭和	36	熊木健治
38	昭和	25	羽田豊道	44	昭和	32	鈴木芳子	48	昭和	36	三浦 晋
39	昭和	26	大澤弥生	44	昭和	32	川村隆子	48	昭和	36	久保一夫

回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名
48	昭和	36	久保春子	51	昭和	39	横山春江	56	昭和	44	綿鍋維男
48	昭和	36	川上 惇	52	昭和	40	中島良信	56	昭和	44	横山司甫
48	昭和	36	川上芳子	52	昭和	40	国頭洋子	56	昭和	44	加藤正子
48	昭和	36	船場定信	52	昭和	40	広瀬南海子	56	昭和	44	深澤 宣
48	昭和	36	前田伸子	52	昭和	40	坂本由美子	56	昭和	44	酒井綾子
48	昭和	36	中嶋 啓	52	昭和	40	小野澤カツ子	57	昭和	45	米澤伸子
48	昭和	36	定留温子	52	昭和	40	水林須美子	57	昭和	45	松林久一
48	昭和	36	油木劭之	52	昭和	40	是枝 潤	57	昭和	45	石川ふさ子
48	昭和	36	井上禎子	53	昭和	41	深田和代	57	昭和	45	奥村淳子
48	昭和	36	松繁克通	53	昭和	41	曲淵徹雄	57	昭和	45	古屋典子
49	昭和	37	三尾美和子	53	昭和	41	坂本理英子	57	昭和	45	真野由比子
49	昭和	37	土方久家	53	昭和	41	村上則彦	57	昭和	45	天笠之珠子
49	昭和	37	小川信吾	53	昭和	41	中村和子	57	昭和	45	加藤正子
49	昭和	37	半澤弥榮子	53	昭和	41	南 法夫	57	昭和	45	伊藤要一
49	昭和	37	林 幸子	53	昭和	41	林 聡	57	昭和	45	保坂公平
49	昭和	37	鈴木国男	53	昭和	41	岩崎孝一	58	昭和	46	上田宗央
49	昭和	37	廣江光代	54	昭和	42	山口征司	58	昭和	46	石井誠司
49	昭和	37	見義治子	54	昭和	42	安達文三	58	昭和	46	石田行知
49	昭和	37	川村博子	54	昭和	42	市川 隼	58	昭和	46	村上 学
50	昭和	38	飯田武治	54	昭和	42	市川春子	58	昭和	46	村田悦郎
50	昭和	38	川田桂子	54	昭和	42	小木曾周子	58	昭和	46	穂苺 茂
50	昭和	38	前田一郎	54	昭和	42	庄司孝市	58	昭和	46	末木一夫
50	昭和	38	定塚紀志子	54	昭和	42	庄司幸子	58	昭和	46	加藤健二
50	昭和	38	武石万里子	54	昭和	42	松本令子	59	昭和	47	駒田由美子
50	昭和	38	木原幸弘	54	昭和	42	長谷見蓉子	59	昭和	47	松本茂外志
50	昭和	38	秋葉祐子	54	昭和	42	森川礼子	59	昭和	47	三輪 保
50	昭和	38	高野祐子	54	昭和	42	牧戸宏行	59	昭和	47	清水善行
50	昭和	38	福田昌平	54	昭和	42	佐藤和恵	59	昭和	47	村上香代子
50	昭和	38	櫻井久子	55	昭和	43	藏 礼子	59	昭和	47	井本直樹
50	昭和	38	宮澤英雄	55	昭和	43	井上みどり	60	昭和	48	水野洋子
50	昭和	38	下田 力	55	昭和	43	奥村啓輔	60	昭和	48	中西憲幸
50	昭和	38	秋本紀子	55	昭和	43	柿崎直和	60	昭和	48	田谷榮子
50	昭和	38	脇谷紀代子	55	昭和	43	松野 萌	60	昭和	48	田中加代子
51	昭和	39	加賀美壯一	55	昭和	43	石橋嘉夫	60	昭和	48	山下晴義
51	昭和	39	諏訪庸夫	55	昭和	43	滝沢春美	60	昭和	48	加藤マリ子
51	昭和	39	石塚典子	55	昭和	43	南 菖子	61	昭和	49	和田健司
51	昭和	39	塚越由美	55	昭和	43	梅本美智子	61	昭和	49	中村直隆
51	昭和	39	島田輝子	55	昭和	43	牧野由紀子	61	昭和	49	清水城右
51	昭和	39	島田庄蔵	55	昭和	43	加藤忠昭	62	昭和	50	梶谷早苗
51	昭和	39	那須邦久	55	昭和	43	志水正明	62	昭和	50	田島明美

回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名
62	昭和	50	白江秀子	66	昭和	54	井上 豊	76	平成	元年	青山宗夫
62	昭和	50	萩野洋子	66	昭和	54	井上彩子	77	平成	2	河南三郎
62	昭和	50	西山信右	66	昭和	54	金子美代子	77	平成	2	山本善一
63	昭和	51	高橋裕子	66	昭和	54	加藤浩嗣	78	平成	3	出崎克也
63	昭和	51	和田仁美	66	昭和	54	真船恭子	81	平成	6	杉山 潔
63	昭和	51	泉 眞美	68	昭和	56	大野伸子	82	平成	7	籙木淳平
63	昭和	51	高橋裕子	69	昭和	57	佐々木晴代	83	平成	8	鎌倉昌博
63	昭和	51	萩野幸司	69	昭和	57	小林真弓	83	平成	8	葛西美恵
63	昭和	51	本郷富江	69	昭和	57	塚本尋子	85	平成	10	高瀬明子
63	昭和	51	矢澤清子	70	昭和	58	山口貴史	85	平成	10	大島香代
64	昭和	52	鈴木利之	70	昭和	58	浦本博志	85	平成	10	本田唯子
64	昭和	52	坂口一夫	70	昭和	58	遠藤義之	87	平成	12	谷村タケノリ
64	昭和	52	真船英一	71	昭和	59	永田嘉弘	89	平成	14	設樂邦夫
65	昭和	53	渡辺茂美子	71	昭和	59	小澤佐余子	旧職員			渡辺一義
66	昭和	54	草柳淳子	71	昭和	59	本田順子	旧職員			渡辺和夫
66	昭和	54	原 信行	71	昭和	59	鈴木敏彰	旧職員			中込和哉
66	昭和	54	金原祐吉	72	昭和	60	家本 孝				
66	昭和	54	大西弘章	73	昭和	61	加藤秀樹				
66	昭和	54	宮田康子	74	昭和	62	長山勝良				
66	昭和	54	川崎英之	76	平成	元年	朝倉 渡				

— 編集後記 —

毎月第三金曜日に開催の「薬多津三金会」に若い人たちを呼び込んで、同窓の絆を深めるとともにエネルギーと情報・アイデアを頂き、支部運営や定期総会が活性化されてきています。今年度の首都圏遠久袋 55 号はその名の如く、若手とともにゴーゴー号です。先日、会員の皆様に年会費を振り込んで頂いている「ゆうちょ銀行」より、富山薬窓会本部の設立年月日等に関する問合せがありました。富山大学薬学部 HP の連絡先である okuda@pha.u-toyama.ac.jp に問合せたところ、結果的に首都圏支部総会でもお馴染みの富山薬窓会学内理事（庶務）をされている薬物生理学研究室の酒井秀紀教授（第 72 回卒）から直々に回答を頂きました。大学の百年史を調べてくださり、同窓会の設立は大正 7 年 4 月、富山薬窓会への名称変更は昭和 25 年 5 月と判明致しました。歴史の重みを改めて感じるとともに、同窓の絆を深く感じました。感謝。

皆様の定期総会への多数のご出席を祈念しております。

（幹事長 59 回 井本 直樹）

事務局 アサヒ興業（宇田川：uda@pop-asahi.co.jp）

幹事長 井本 直樹 e-mail：st_imoto@star.ocn.ne.jp

薬多津三金会 今後の開催日

5 月・・・5 月 21 日（金）

6 月・・・6 月 18 日（金）

7 月・・・7 月 16 日（金）

会場案内

会 場：「多津よし」

場 所：豊島区東池袋 5-9-6

東京メトロ有楽町線「東池袋」下車、徒歩 5 分、

都電荒川線「東池袋四丁目」下車、徒歩 3 分

電 話：03 (3985) 8776

— お 願 い —

首都圏支部では本部の永久会費とは別に独自の活動維持の為、会員の皆様から年間 1,000 円の会費を徴収しています。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成22年度定期総会開催のご案内

22年度総会を下記、日程・場所にて開催いたしますので、皆様のご参加をお願いいたします

記

日 時 平成22年6月26日(土) 15時～19時

場 所 茗溪会館(下図参照) 東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷駅」下車、徒歩3分

住 所 住所 文京区大塚1-5-3 TEL 03(3943)0321

<http://www2.plala.or.jp/nshimada/rekishi-atarashi-meikeikaikan.htm>

話題提供① 酒井 綾子氏 (56回卒) 元国立医薬品食品衛生研究所

話題提供② 富田 幹夫氏 (57回卒) 埼玉がんセンター

ご来賓 薬窓会会長 松井 竹史 様
(予定) 薬学部長 今中 常雄 先生
薬学部教授 酒井 英紀 先生
近畿支部長 柚本 アヤ子 様

会 費 男性 8,000円 女性 6,000円 (ご夫婦 13,000円)

平成年度の卒業生 5,000円

卒業後3年まで(平成20年3月～平成22年3月)は無料

年会費 同封の年会費振り込み用紙にて、平成22年度年会費1,000円の振り込みをお願いします。

当日、会場にても年会費(1,000円)を受付けます。

* 場所は昨年と同じです。

池袋から東京メトロ丸ノ内線で2駅目の茗荷谷で降りてください。

* 話題提供は2題です。

酒井様からは、長年にわたる研究成果のエッセンスを、富田様からは出版された書籍：「君にみせばや」ー特産植物探索記ー(ほうずき書籍)に纏わるお話をいただきます。

* 広い会場ですので、同期をお誘いいただき、多くの方のご参加お待ちしております。

茗溪会館交通案内

東京メトロ丸ノ内線
「茗荷谷駅」下車、徒歩3分

